

施策項目 2 2 本道の地域特性等を踏まえた特色ある高校づくり

[評価結果]

【担当課：高校教育課(ICT教育推進課)】



担当課HP

総合評価	概ね計画どおり
-------------	----------------

定量評価 [指標]	B
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	1	0	1	0
	d 評価となった指標				

定性評価 [施策]	進展あり
-----------	------

本道では人口減少や少子高齢化が進み、地域創生が喫緊の課題となる中、地域と連携・協働した魅力ある高校づくりの推進がこれまで以上に求められていることから、学校と地域が連携し、地域の教育資源を積極的に活用した特色ある教育活動に取り組んでいる。北海道高等学校遠隔授業配信センターの配信機能の強化や、高校を取り巻く教育環境の変化、地域の抱えている今日的な教育課題等に対応するため「これからの高校づくりに関する指針」改定版を策定するなど、施策の進展が認められる。

[施策の推進状況]

【P】・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	(1) 地域の特性を生かした教育活動の推進 ・広域分散型の本道においては、人口減少が急速に進む中、地域の教育機能の維持向上を図ることが必要
	(2) 活力と魅力のある高校づくりの推進 ・中学校卒業生数の減少傾向や地域の実情などを踏まえた適切な高校配置を進めるとともに、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応した魅力ある学校づくりが必要

(1) 地域の特性を生かした教育活動の推進	
<p>①地域の教育資源や学習環境を活用した特色ある教育課程の編成・実施の促進</p> <p>②探究的な学びを通じて地域におけるキャリア教育を推進する「北海道CLASSプロジェクト」を継続実施</p> <p>③他の学校への通学が困難な地域にある小規模校を地域連携特例校に位置付け、地域の教育資源を積極的に活用した教育活動を推進するとともに、協力校や北海道高等学校遠隔授業配信センターと連携した教育活動などによる教育環境の充実</p>	<p>①・地域課題解決につながる「S-TEAM教育推進事業」の成果の普及（1月21日、社会との共創推進プロジェクト地域課題解決型成果発表会）</p> <p>・学校教育指導訪問において、「総合的な探究の時間の実施状況に係るチェックリスト」に基づいた協議（5月～7月）</p> <p>・地域の教材や学習環境の活用事例を「高等学校教育課程編成・実施の手引」に掲載、周知及び指導・助言（10月手引をウェブページに掲載、11月17日北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会で周知）</p> <p>②地域コーディネーターの取組例などを参考に、地学協働を進めるための総合的な探究の時間を軸とした教育課程の編成について指導助言（10月開催、参加者：11名）</p> <p>③地域連携特例校の教育活動充実のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特例校・協力校間における連携の実施（27組51校） ・北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業配信（地域連携特例校27校、離島の高校2校へ8教科25科目）
<p>①・引き続き、「目標を実現するにふさわしい探究課題」についての理解が図られるよう、学校教育指導訪問や教育課程研究協議会等において協議を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「S-TEAM教育推進事業」において、地域課題の解決につながる探究活動の実施、成果の全道への普及 <p>②高校生が実習で生産した商品や企業等と連携して開発した商品を北海道のアンテナショップ等で販売するなど、特色ある学習活動で取り組んだ成果を積極的に発信</p> <p>③・遠隔授業配信センターからの配信に加え、道立学校間における遠隔授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携校による協力校及び協力校以外の学校との連携の推進 	<p>①各管内や全道で実施した成果発表会で、各校において調べ学習で終わらずに、地域や学校の特色に応じた課題などの設定を行い、探究の見方・考え方を働かせられるよう工夫している様子が見られた。</p> <p>②地学協働の取組について、地域とつながっているという感覚が学校においてはまだまだ不十分であり、地域と連携した取組の成果を普及する機会が必要</p> <p>③協力校以外との連携や遠隔授業配信センター以外からの遠隔授業を可能とするなど教育環境の更なる充実が必要</p>

(2) 活力と魅力のある高校づくりの推進	
<p>①高校進学希望者数に見合った定員確保を基本とし、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るための高校配置計画の策定</p> <p>②学校や地域の実情に応じた多様なタイプの高校づくりの推進及び普及啓発</p> <p>③道立高校の学科の在り方に関する検討</p>	<p>①・公立高等学校配置計画の策定（3年間の計画（R5～R7））及びその後の4年間の見直し（R8～R11）</p> <p>・北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」による生徒の進路への対応（道央圏の拠点校1校で実施）</p> <p>②多様なタイプの高校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンビシャススクールの導入（千歳北陽高校、野幌高校） ・多様なタイプの高校を紹介するパンフレットの配付（全道の中学校、高校、市町村教委等） ・道教委Webページに掲載する学校紹介ビデオの更新 <p>③普通科改革支援事業において関係機関との連携体制の整備やコーディネーターを配置（実施校：釧路湖陵高校、大樹高校）</p> <p>①・②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これからの高校づくりに関する指針」改定版の策定(R5.3) ・北海道教育推進会議高等学校専門部会やバブコメの実施等
<p>「これからの高校づくりに関する指針」改定版に基づき、</p> <p>①②多様で柔軟な教育課程を編成し、生徒の学習ニーズに対応できる学校規模の確保と、生徒の就業機会の確保や地域創生の観点に立った教育機能の維持を両立させた適切な学校・学科の配置となるよう検討</p> <p>③文科省事業（普通科改革支援事業）を活用し、普通科新学科設置に向けた教育課程の編成・実施を進めるとともに、新学科のPRを充実</p>	<p>①・②・③</p> <p>公立高等学校の配置計画や、多様なタイプの高校づくりを進めるためには、社会の劇的な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業生数の減少など高校を取り巻く環境の変化に対応し、教育機能の維持向上を図ることが必要</p> <p>①多くの生徒が参加しやすいよう、「みらいの教員育成プログラム」の改善が必要</p> <p>③小・中学生や保護者への周知を図るため普通科新学科のPRが必要</p>

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 総合的な学習の時間における地域の教材や学習環境の活用の割合(%) (全日制)	(H29)		92.0	94.0	96.0	98.0	100	88.3%	c	管内公立高等学校状況調査	道教委	令和4年度	道立高等学校
	89.6	89.6	71.4	76.4	82.5	94.8	88.3						
② 総合学科又は、単位制の高等学校を設置している通学区域の割合(%)	(H29)		94.7	100	100	100	100	100%	a	道教委による調べ	道教委	令和4年度	道立高等学校
	94.7	94.7	94.7	100	100	100	100						
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		B						
	1	0	1	0									
新型コロナウイルスの影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組	① 探究活動に当たっては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、地域の自然環境や地域の伝統・文化を積極的に活用したり、地域の企業や人々と協働したりするなどして行うよう、指導主事による学校教育指導等で指導・助言												
d評価に対する今後の取組													